きたみらい赤玉葱振興会

きたみらい赤玉葱振興会

設　立　令和2年6月5日
会員数　116名
会　長　佐藤　和彦

主なできごと

2020.6.5	きたみらい赤玉葱振興会設立総会並びに第1回通常総会を開催
2020.7.6	栽培技術講習会（66名参加）
2020.7.16	取扱要領説明会（32名参加）
2020.7.18	目均し会（くれない品種対象）
2020.8.7	目均し会（早生～中晩生品種）
2020.12.3	市場協議会（Web開催）
2021.2.5	第2回通常総会
2021.3.25	取扱要領説明会（27名参加）
2021.6.24	圃場巡回（役員圃場）
2021.8.7	目均し会（早生～中晩生品種）
2021.11.11～12	道内視察（旭川、札幌市場視察他）
2021.12.13	市場協議会（Web開催）
2021.12.20	市場協議会（Web開催）
2022.2.18	第3回通常総会（書面開催）
2022.6.13	栽培講習会（25名参加）
2022.6.16～17	道内視察（富良野、岩見沢圃場視察他）
2022.7.16	目均し会（くれない品種対象）
2022.8.8	目均し会（早生～中晩生品種）
2022.11.14～15	道内視察（旭川、札幌市場視察他）
2022.11.28～12.3	道外視察（東京・中四国市場、加工業者）
2023.1.17	産消懇談会（市場4社）
2023.2.3	第4回通常総会

皆様とともに

きたみらい赤玉葱振興会
会　長　佐藤　和彦

きたみらい農業協同組合が合併20周年を迎えましたことに、心よりお祝い申し上げます。

当赤玉葱振興会は、これまでに「端野町くれない生産組合」と「きたみらい赤玉葱部会」の両組織が精力的に活動を進め、お互いが切磋琢磨しながらブランドを築いて参りました。しかし、道内他産地との競争が激化する中、更なる生産振興をしていく為には、きたみらいが１つになりマーケットリーダーとして確固たるブランドを構築する必要がありました。去る令和２年2月、両組織は活動の幕を閉じ、皆様がこれまで築いてきたものを礎に「きたみらい赤玉葱振興会」を令和2年6月に設立し、新たな第一歩を踏み出しました。

設立後は、新型コロナウィルスの影響により活動が制限される中でしたが、出来る限り可能な方法で各事業の実施に当たって参りました。

また、年産によっては、干ばつやゲリラ豪雨、降雹などの被害に見舞われた年もございましたが、会員とご家族皆様のご努力と関係機関のご支援・ご指導によりこの様な年産も乗り越えてきました。

徐々にではありますが、コロナ前の状態に戻りつつあると実感しております。今後もより一層の体制強化と高品質・安定出荷を目指し、栽培技術向上のための栽培技術講習会や圃場巡回を計画し、販売面では生食・加工販売の拡大を目指しより一層の販売推進を取組んで参ります。

最後になりましたが、きたみらい農業協同組合の益々のご発展を祈り、お祝いの言葉といたします。

会　長　佐藤　和彦

副会長　水口　靖一

副会長　西原　克隆

役員一覧

	令和2年度		令和3年度		令和4年度		令和5年度	
役　職	地区	氏　名	地区	氏　名	地区	氏　名	地区	氏　名
会　長	訓	佐藤和彦	訓	佐藤和彦	訓	佐藤和彦	訓	佐藤和彦
副会長	端	水口靖一	端	水口靖一	端	水口靖一	端	水口靖一
	上	西原克隆	上	西原克隆	上	西原克隆	上	西原克隆
理　事	留	坂下修一	留	坂下修一	北	福井慎一	北	福井慎一
	相	林　尚哉	相	林　尚哉	相	林　尚哉	相	林　尚哉
	端	井上貴博	端	井上貴博	訓	高城耕一	訓	高城耕一
監　事	北	福井和範	北	福井和範	留	坂下祐太	留	坂下祐太
	訓	新井山芳弘	訓	新井山芳弘	端	井上貴博	端	井上貴博
会員数	119名		118名		118名		116名	

令和2年度

これまでの「端野町くれない生産組合」「きたみらい赤玉ねぎ部会」の2組織が、組織・販売の一本化による販売強化、選果効率とコストダウン、市場占有率の拡大、ブランド強化のため、「きたみらい赤玉葱振興会」として設立。事業面では新型コロナウィルスの影響により、多くの活動が中止を余儀なくされた。

設立総会

令和3年度

6月下旬から30℃を超える猛暑が続き、8月上旬まで降雨もわずかで、生育停滞・倒伏や枯凋が進み、平年を大きく下回る収量実績となった。事業面では長期化する新型コロナウィルスの影響により、昨年に引き続き多くの活動が中止を余儀なくされた。

第2回通常総会

令和4年度

6月18日・19日、7月4日に広域に亘る大規模な降雹及び大雨があり、被害は玉葱と同様に赤玉葱に関しても甚大なものとなった。

道内視察研修

きたみらい馬鈴薯振興会

きたみらい馬鈴薯振興会

設　立　平成15年3月6日
会員数　253名
会　長　石村　博樹

主なできごと

2013.2.19	第11回きたみらい馬鈴薯振興会通常総会
2013.3.1	オホーツク総合振興局主催「スノーマーチフォーラム2013」（参加者48名）
2013.6.17～	三役道外販売推進（市場4社・加工ユーザー1社・長崎産地視察）
2013.12.2	マルキタ スノーマーチ販売開始セレモニー
2014.1.21～	役員道外販売推進
	（参加者19名　京浜・中京市場協議会、大田市場・淀橋市場でのスノーマーチ試食販売推進）
2014.2.20	第12回きたみらい馬鈴薯振興会通常総会
2014.4.21	三役によるJAめむろ視察
2014.6.16～	三役道外販売推進（京浜・浜松・中京市場協議会・加工ユーザー2社）
2014.7.3	生産者全体交流会の開催（参加者117名）
2014.12.1～	役員道外販売推進
	（参加者9名　京浜・中京市場協議会、岐阜県内でのスノーマーチ試食販売推進）
2015.1.22	H26生産向上対策PJ活動実績報告会・栽培講習会（参加者80名）
2012.2.19	第13回きたみらい馬鈴薯振興会通常総会
2015.6.15～	三役道外販売推進（京浜市場協議会、中京市場協議会、東急ストアー訪問）
2015.11.8～	イギリス農業視察研修（役員12名参加・シンジェンタ、グリメ他）
2015.11.27	きたみらい馬鈴薯振興会市場協議会（各市場、ユーザー、生産者等86名参加）
2015.12.13～	スノーマーチ市内量販試食販売推進（イオン・コープ他5店舗）
2016.1.18～	役員道外販売推進
	（役員10名、フレミズ5名　京浜・中京市場協議会、澤光青果他3店舗試食販売推進）
2016.2.25	第14回きたみらい馬鈴薯振興会通常総会
2016.4.13	PJによるJAめむろ視察（馬鈴しょ作業受託組合の取組）
2016.6.13～	三役道外販売推進（京浜市場協議会、中京市場協議会、関西中四国市場協議会）
2016.6.28	きたみらい馬鈴薯振興会生産者交流会（市場5社、会員参加者130名）
2016.12.6～	ポテトフォーラム参加・JAようてい馬鈴しょ選果場視察
2017.1.16～	役員道外販売推進
	（役員10名、フレミズ3名　京浜・中京市場協議会、岐阜・名古屋3店舗試食販売推進）
2017.2.21	第15回きたみらい馬鈴薯振興会通常総会
2017.6.12～	三役道外販売推進（京浜市場協議会、中京市場協議会、東一・浜中訪問）
2017.12.4	きたみらい馬鈴薯振興会市場協議会（各市場、ユーザー、生産者等78名参加）
2017.12.5～	ポテトフォーラム参加・カルビー千歳工場視察
2018.1.15～	役員道外販売推進
	（役員10名、フレミズ2名　京浜・中京市場協議会、東印広島訪問）
2018.2.2	北見市・訓子府町、置戸町　学校給食玉ねぎ馬鈴しょ贈呈
2018.2.20	第16回きたみらい馬鈴薯振興会通常総会
2018.2.25～	札幌市くるるの杜試食宣伝販売促進（役員5名参加）
2018.6.14～	三役道外販売推進（京浜市場協議会、中京市場協議会、セントライ訪問）
2018.6.26	きたみらい馬鈴薯振興会生産者交流会（市場6社、参加者131名）
2018.7.9～	きたみらい種子馬鈴しょ生産組合との種子価格に関する協議会
2019.1.14～	役員道外販売推進
	（役員9名、フレミズ3名　京浜・中京市場協議会、福島県試食宣伝）
2019.2.19	第17回きたみらい馬鈴薯振興会通常総会
2019.2.24～	札幌市くるるの杜試食宣伝販売促進（役員5名参加）
2019.6.10～	三役道外販売推進（京浜市場協議会、中京市場協議会、浜印訪問）
2019.11.25	きたみらい馬鈴薯振興会市場協議会（市場8社、参加者85名）
2020.1.14～	役員道外販売推進
	（役員9名、フレミズ2名　京浜・中京・九州市場協議会、鹿児島出水視察）
2020.2.19	第18回きたみらい馬鈴薯振興会通常総会
2020.6.18	JAコントラ 4畦自走・2畦牽引ハーベスター実演会
2020.7.13	契約馬鈴しょ青空技術講習会（3会場）
2021.2.22	第19回きたみらい馬鈴薯振興会通常総会
2021.6.24	きたみらい馬鈴薯振興会3役市場協議会（WEB）　京浜3社　中京2社
2021.11.15	きたみらい馬鈴薯振興会市場協議会（WEB）　京浜3社　中京3社
2021.12.2～	三役道外販売推進（東一・新ベジ・岐阜・セントライ・名青）
2022.2.14	第20回きたみらい馬鈴薯振興会通常総会
2022.6.13～	三役道外販売推進（京浜協議会13社、中京協議会10社、東一、セントライ訪問）
2022.12.8～	役員道外販売推進
	（役員8名　中京協議会10社・熊果訪問、市内量販視察・全農神奈川 東急ストア視察）
2022.12.14～	ポテトフォーラム参加（3役）、くるるの杜視察
2023.2.21	第21回きたみらい馬鈴薯振興会通常総会
2023.2.21	きたみらい馬鈴薯振興会創立20種年記念事業（歴代役員表彰）
2023.6.12～	三役道外販売推進（京浜協議会、中京協議会、東北協議会）

消費者に求められる製品価値と生産現場に求められる品種のベストマッチの構築

きたみらい馬鈴薯振興会
会　長　**石村　博樹**

JAきたみらい設立20周年という記念すべき年を迎えられましたことを心よりお祝い申し上げます。

ここまでの20年間は激動の年であったと思います。混沌とした世界情勢に翻弄され、私たち生産現場でのコストは大幅に高騰し営農収入も不安定になる要素が格段に増加しました。こうした状況の中、先人たちの構築した消費地における高い産地評価や受け継がれてきた生産技術を活かし、更なる高みを目指し消費者に求められる価値の構築や生産現場での安定した収量と品質の確保に最大限努めていく事が今を生きる私たちの責務であると考えます。将来にわたりこの産地を守るべく、ジャガイモシストセンチュウ蔓延防止対策に取組み全量抵抗性品種への切替えを目指し生産・販売両輪で取組みを進めて参ります。振興会へ求められる課題は多くありますが、会員の力を結集し今後の更なる発展を祈念し現在までの会員、役職員に深く感謝を申し上げお祝いの言葉と致します。

会　長　**石村　博樹**

副会長　**加藤　貴善**

副会長　**黒河　潤**

役員一覧

	平成25年度		平成26年度		平成27年度		平成28年度		平成29年度		平成30年度	
役　職	地区	氏　名	地区	氏　名	地区	氏　名	地区	氏　名	地区	氏　名	地区	氏　名
会　長	端	平川千春	端	平川千春	端	平川千春	訓	佐藤茂樹	訓	佐藤茂樹	訓	佐藤茂樹
副会長	置	堺　信幸	置	堺　信幸	置	堺　信幸	西	北口裕生	西	北口裕生	西	北口裕生
	訓	佐藤茂樹	訓	佐藤茂樹	訓	佐藤茂樹	端	島倉英一	端	島倉英一	置	石村博樹
理　事	西	本條康浩	西	本條康浩	西	本條康浩	西	本條康浩	西	本條康浩	西	井下　徹
	西	斉藤博文	西	星加幸司	西	星加幸司	置	石村博樹	置	石村博樹	置	伊東憲一
	置	石村博樹	置	石村博樹	置	石村博樹	置	伊東憲一	置	伊東憲一	訓	佐藤浩基
	訓	武藤一仁	訓	西森孝広	訓	西森孝広	訓	西森孝広	訓	西森孝広	訓	黒河　潤
	訓	西森孝広	訓	寺尾仁志	訓	寺尾仁志	訓	寺尾仁志	訓	寺尾仁志	上	角田大造
	西	星加幸司	上	長山正吉	上	長山正吉	上	角田大造	上	角田大造	上	酒井秀徳
	上	長山正吉	上	角田大造	上	角田大造	上	酒井秀徳	上	酒井秀徳	北	岡見博文
	上	角田大造	北	岡見博文	北	岡見博文	北	岡見博文	北	岡見博文	北	黒須友和
	北	藤原義忠	北	黒須友和	北	黒須友和	北	黒須友和	北	黒須友和	端	谷川純一
	北	岡見博文	端	島倉英一	端	島倉英一	端	谷川純一	端	谷川純一	端	加藤貴善
	端	島倉英一	端	谷川純一	端	谷川純一	端	加藤貴善	端	加藤貴善	端	重富勝敏
	端	谷川純一										
監　事	訓	須河和紀	訓	田中雄二郎	訓	田中雄二郎	訓	田中雄二郎	訓	田中雄二郎	訓	田中雄二郎
	西	北口裕生	北	福井慎一	北	福井慎一	端	竹中義博	端	竹中義博	上	長部朋和
会員数	420名		391名		371名		343名		337名		313名	

	令和1年度		令和2年度		令和3年度		令和4年度		令和5年度	
役　職	地区	氏　名	地区	氏　名	地区	氏　名	地区	氏　名	地区	氏　名
会　長	訓	佐藤茂樹	置	石村博樹	置	石村博樹	置	石村博樹	置	石村博樹
副会長	西	北口裕生	訓	黒河　潤	訓	黒河　潤	訓	黒河　潤	訓	黒河　潤
	置	石村博樹	端	加藤貴善	端	加藤貴善	端	加藤貴善	端	加藤貴善
理　事	西	井下　徹	西	斉藤英明	西	斉藤英明	西	斉藤英明	西	斉藤英明
	置	伊東憲一	置	伊東憲一	置	伊東憲一	置	渡辺健太郎	置	渡辺健太郎
	訓	佐藤浩基	訓	佐藤浩基	訓	佐藤浩基	訓	小坂浩司	訓	小坂浩司
	訓	黒河　潤	訓	小坂浩司	訓	小坂浩司	訓	大澤賢太	訓	大澤賢太
	上	角田大造	上	酒井秀徳	上	酒井秀徳	上	景政大雄	上	景政大雄
	上	酒井秀徳	上	景政大雄	上	景政大雄	上	川畑師和	上	川畑師和
	北	岡見博文	北	斎藤宏幸	北	斎藤宏幸	北	斎藤宏幸	北	斎藤宏幸
	北	黒須友和	端	谷川純一	端	谷川純一	端	重富勝敏	端	野々下秀幸
	端	谷川純一	端	重富勝敏	端	重富勝敏				
	端	加藤貴善								
	端	重富勝敏								
監　事	訓	田中雄二郎	西	井下　徹	西	井下　徹	西	井下　徹	西	井下　徹
	上	長部朋和	北	黒須友和	北	黒須友和	北	黒須友和	北	黒須友和
会員数	304名		281名		270名		264名		253名	

平成25年度

スノーマーチ市内量販店販売推進の実施。マルキタや市内量販店に協力を得ながら、イオン、コープ、ビックハウス、フクハラ、イトーヨーカドー等でスノーマーチ生産者による試食宣伝販売活動を計3回行った。

平均反収　2,770kg／10a

市内量販店での販売促進

平成26年度

近年の作付け面積減少や、低収量・低歩留まりなど様々な課題克服に向け「生産向上対策プロジェクト」を立ち上げ、①現状の輪作体系の実態と影響の分析、②良質且つ高収量生産に向けた基本技術の調査・試験、③労力軽減に向けた調査・試験栽培技術講習会の開催など、生産組織・JA各部門が連携し取り組みを開始。

平均反収　3,520kg／10a

生産向上対策PJの試験圃場

平成27年度

きたみらい馬鈴薯振興会の発足以来初となる海外視察研修を実施。馬鈴しょの生産・販売の先進地であるイギリスを視察した。グリメやシンジェンタ、青果会社など各視察先では、それぞれイギリス全土の馬鈴しょを始めとする現状の農業の状況や抱えている問題、馬鈴しょの種子から始まり各栽培技術や販売体系の実態・情勢を確認、各種機械などを目の当たりにし技術面・機械面の両面において、はるかに日本よりも進んでいること、パン・ジャガイモを主食とする文化を実感した。

平均反収　3,690kg／10a

イギリス シンジェンタを視察

平成28年度

8月に度重なる台風の来襲により過去に例を見ない大雨災害となり、農作物のみならず圃場や施設・機械にも被害が発生。国の激甚災害指定を受けるほど甚大なものとなった。馬鈴しょでは一般早出しの大部分が後ずれし、収穫作業に大変苦労する年産となったが組合員の皆様の懸命な努力もあり、総じて平年作の収穫量を確保することができた。

平均反収　3,540kg／10a

台風被害による馬鈴しょ冠水圃場

平成29年度

スノーマーチの受け入れ規格の拡大を実施。馬鈴しょ生産向上対策PJによる加工馬鈴しょコントラクター実用試験開始。45ｈａの収穫を行い今後のJAコントラクター事業構築へ向けた取り組みを開始した。

平均反収　3,470kg／10a

カルビーの自走式2畦ハーベスター

平成30年度

北広島市の「くるるの杜」で振興会役員による販売推進を実施。くるるの杜店舗でスノーマーチを使用したじゃがバターを振る舞い試食宣伝を行った。また隣接する農村レストランではスノーマーチや赤玉ねぎなどきたみらいの農産物を使用したメニューを販売し、食事をされた来店客にアンケート調査を実施、高評価を頂いた。

平均反収　3,320kg／10a

札幌市くるるの杜馬鈴しょ売場

令和1年度

平成27年8月に網走市内一部地域において国内で初めてジャガイモシロシストセンチュウが確認され、植物防疫法に基づく緊急防除が実施される。蔓延拡大が懸念される中その後の調査において、令和2年度までには網走市の11大字区、大空町の1大字区更には斜里町の7大字区、清里町の1大字区でも発生が確認され、馬鈴しょ生産における脅威となっている。

平均反収　3,950kg／10a

国内初の病害虫確認

網走の一部ジャガイモ畑

全国紙での報道

令和2年度

馬鈴しょ収穫に係る労働力不足の解消と、作付面積の維持拡大並びに輪作体系の適正化に向け加工馬鈴しょに特化したコントラ事業がスタート。良質な馬鈴しょを持続的に販売できる体制構築への取組を開始する。R2年産では収穫コントラで18戸・78ha、荒選コントラでは1,080基・1,448ｔの実績となった。

平均反収　3,510kg／10a

AVR自走4畦掘りハーベスター

令和3年度

新型コロナウィルスの蔓延により、振興会においても視察や市場協議会、講習会など多くの事業を中止せざるを得ない状況となった。産地と消費地の移動も制限される中、消費地との情報交換や意思疎通を図るべくWebによる市場協議会を開催。振興会役員と市場担当者による慣れない会議体ではあったが、消費地情勢の報告や産地からの情報発信など、販売促進への取組を実施した。

平均反収　3,190kg／10a

WEBによるスクリーン越しの協議会

令和4年度

コロナ禍の終息にも先が見え、約3年ぶりとなる役員道外販売推進を12/8～10に実施。役員8名参加のもと中京地区で市場協議会（10社）、熊本県熊本大同青果と神奈川県全農神奈川を訪問し市内量販店等においてスノーマーチの販売促進を行った。

平均反収　3,870kg／10a

東京大田市場

きたみらい種子馬鈴薯生産組合

きたみらい種子馬鈴薯生産組合

設　立　平成15年3月6日
会員数　50名
会　長　塚本　直樹

主なできごと

2013.2.18	第11回きたみらい種子馬鈴薯生産組合通常総会
2013.6.12	防疫補助員講習会・臨時総会・生産者交流会
2013.8.2	馬鈴薯振興会・種子馬鈴薯生産組合三役合同による常勤懇話会
2013.8.2	種子馬鈴薯目揃え会
2014.1.21～	道外販売推進（三役3名　きたみらい馬鈴薯振興会と合同）
2014.2.18	第12回きたみらい種子馬鈴薯生産組合通常総会
2014.6.11	防疫補助員講習会・ウイルス病現地講習会
2014.8.22	種子馬鈴薯目揃え会
2014.11.20～	道内視察研修（きたそらち農協・ホクレン種苗課・太平洋フェリー）
2015.2.20～	第13回きたみらい種子馬鈴薯生産組合通常総会
2015.6.9	防疫圃場員講習会・ウイルス病現地講習会・生産者交流会
2015.8.18	種子馬鈴薯目揃え会
2015.11.19～	道内視察研修（ホクレン株式会社・種苗管理センター北海道中央農場）
2015.11.24	馬鈴薯振興会・種子馬鈴薯生産組合三役合同による常勤懇話会
2016.2.23	第14回きたみらい種子馬鈴薯生産組合通常総会
2016.6.7	防疫補助員講習会・ウイルス病現地講習会・生産者交流会
2016.7.25	JAとぴあ浜松及び静岡経済連来所（三役対応）
2016.8.22	種子馬鈴薯目揃え会
2017.2.14	第15回きたみらい種子馬鈴薯生産組合通常総会
2017.6.6	防疫補助員講習会・ウイルス病現地講習会
2017.8.22	種子馬鈴薯目揃え会
2017.11.20～	道外視察研修（JAとぴあ浜松・熊谷通運倉庫）
2018.2.13	第16回きたみらい種子馬鈴薯生産組合通常総会
2018.6.5	防疫補助員講習会・ウイルス病現地講習会・生産者交流会
2018.6.8	道内視察研修（十勝農業協同組合連合会・十勝農機株式会社）
2018.7.9	第1回　馬鈴薯振興会との種子馬鈴薯単価に関する協議
2018.8.22	種子馬鈴薯目揃え会
2018.8.29	第2回　馬鈴薯振興会との種子馬鈴薯単価に関する協議
2018.10.15	第3回　馬鈴薯振興会との種子馬鈴薯単価に関する協議
2018.11.8	第4回　馬鈴薯振興会との種子馬鈴薯単価に関する協議
2018.11.21～	道内視察研修（そらち南農協・苫小牧調整保管倉庫）
2019.2.4	第5回　馬鈴薯振興会との種子馬鈴薯単価に関する協議
2019.2.12	第17回きたみらい種子馬鈴薯生産組合通常総会
2019.6.4	防疫補助員講習会・ウイルス病現地講習会
2019.8.5	JAとぴあ浜松来所（三役対応）
2019.8.20	種子馬鈴薯目揃え会
2019.11.8	第1回　馬鈴薯振興会との種子馬鈴薯単価に関する協議
2019.11.20～	道外視察研修（JA全農・種苗管理センター本所・移出ユーザー）
2020.2.17	第18回きたみらい種子馬鈴薯生産組合通常総会
2020.6.8	カッティングプランター試験圃場役員視察
2020.7.30	種子馬鈴薯全圃場植物検診
2021.2.24	第19回きたみらい種子馬鈴薯生産組合通常総会
2021.11.17	馬鈴薯振興会・種子馬鈴薯生産組合三役合同による常勤懇話会
2022.2.17	第20回きたみらい種子馬鈴薯生産組合通常総会
2022.12.6	馬鈴薯振興会・種子馬鈴薯生産組合三役合同による常勤懇話会

持続可能な種子馬鈴しょ 安定生産・安定供給へ向けて

きたみらい種子馬鈴薯生産組合
会　長　塚本　直樹

ここに、きたみらい農業協同組合が創立20周年を迎えるにあたり、先人の方々及び関係各位の皆様の弛まないご努力により、節目の年を迎えられたことに心より深く感謝と敬意を申し上げます。

平成25年の10周年から早10年、歴史的には浅いように思われますが、これまで取り組んできた様々な事業を思い起こせばとても中身の濃い10年だったと思います。役職員の皆様の多大なるご苦労を推し測ってみますとただただ頭が下がるところであります。

きたみらい種子馬鈴薯生産組合としては、振り返ってみますと創立10周年まで激動の年でありましたが、20周年においても、10周年に引き続き激動の年であったと思われます。シストセンチュウの発生や種子馬鈴薯価格交渉、ウイルス株の発生、さらには新型コロナウイルスによる日常の変化、国際紛争に伴う生産費高騰など種子馬鈴薯生産における様々な課題解決のため、今後も解決協議を実施していくとともに、更なる人的・物的支援をお願い申し上げるところです。農業を取り巻く環境は、新型コロナウイルスとの闘いが長期化し、各農畜産物の消費は依然として低迷している状況が続いております。急激な円安などによる生産資材の高騰、それに伴う様々な値上げにより農業業界だけでなく、地域経済への影響も想定される中、まだまだ先行きの見えないところでございます。また、全国的な農家戸数の減少や担い手不足、農村地域の活力低下から種子馬鈴薯需要は減少しており、種子馬鈴薯供給に対する環境は厳しさを増しております。そのような状況下でございますが、馬鈴薯生産のため、優良品質な種子馬鈴薯の安定供給に取り組んでいかなければなりません。ウイルス病株の早期抜き取りやシストセンチュウ蔓延防止策など日々徹底した圃場、栽培管理をきたみらいの協力のもと、生産者一丸となって取り組んで参ります。

多様に変化する農業情勢でございますが、今後も先の10年で培った努力を維持し、生産者・JA・職員一丸となって更なる発展に向かっていけることをご祈念申し上げ、お祝いの言葉と致します。

会　長　塚本　直樹

副会長　広中　和幸

副会長　片山　博美

役員一覧

	平成25年度		平成26年度		平成27年度		平成28年度		平成29年度		平成30年度	
役　職	地区	氏　名	地区	氏　名	地区	氏　名	地区	氏　名	地区	氏　名	地区	氏　名
会　長	端	高橋博幸	北	竹下雅英	北	竹下雅英	端	桜井慎一	端	桜井慎一	北	白尾高幸
副会長	北	竹下雅英	端	桜井慎一	端	桜井慎一	北	白尾高幸	北	白尾高幸	訓	長尾昭嘉
	訓	古賀誠司	訓	古賀誠司	訓	古賀誠司	上	角田裕明	上	角田裕明	端	塚本直樹
理　事	留	村上孝幸	留	村上孝幸	留	村上孝幸	留	村上孝幸	留	村上孝幸	留	村上孝幸
	置	井上雅明	置	井上雅明	置	井上雅明	置	松本和彦	置	松本和彦	置	広中和幸
	置	松本和彦	置	松本和彦	置	松本和彦	置	広中和幸	置	広中和幸	置	大矢孝幸
	訓	佐藤政二	訓	佐藤政二	訓	佐藤政二	訓	古賀誠司	訓	古賀誠司	訓	片山博美
	上	吉村静一	上	吉村静一	上	吉村静一	訓	長尾昭嘉	訓	長尾昭嘉	上	渡部　剛
	北	白尾高幸	北	白尾高幸	北	白尾高幸	北	坂口　聡	北	坂口　聡	北	坂口　聡
	端	桜井慎一	端	塚本直樹	端	塚本直樹	端	塚本直樹	端	塚本直樹	端	佐藤輝行
監　事	端	土山　毅	上	角田裕明	上	角田裕明	端	佐藤輝行	端	佐藤輝行	置	松本和彦
	置	広中和幸	北	福井啓之	北	福井啓之	訓	片山博美	訓	片山博美	上	田中裕明
会員数	66名		66名		62名		59名		59名		59名	

	令和1年度		令和2年度		令和3年度		令和4年度		令和5年度	
役　職	地区	氏　名	地区	氏　名	地区	氏　名	地区	氏　名	地区	氏　名
会　長	北	白尾高幸	訓	長尾昭嘉	端	長尾昭嘉	端	塚本直樹	端	塚本直樹
副会長	訓	長尾昭嘉	置	広中和幸	置	広中和幸	置	広中和幸	置	広中和幸
	端	塚本直樹	端	塚本直樹	端	塚本直樹	訓	片山博美	訓	片山博美
理　事	留	村上孝幸	留	村上孝幸	留	村上孝幸	留	村上孝幸	留	村上孝幸
	置	広中和幸	置	大矢孝幸	置	大矢孝幸	上	渡部　剛	上	渡部　剛
	置	大矢孝幸	訓	片山博美	訓	片山博美	北	坂口　聡	北	坂口　聡
	訓	片山博美	上	渡部　剛	上	渡部　剛				
	上	渡部　剛	北	坂口　聡	北	坂口　聡				
	北	坂口　聡	北	福井啓之	北	福井啓之				
	端	佐藤輝行	端	佐藤輝行	端	佐藤輝行				
監　事	置	松本和彦	訓	上杉隆博	訓	上杉隆博	訓	上杉隆博	訓	上杉隆博
	上	田中裕明	端	小林章三	端	小林章三	端	佐藤輝行	端	佐藤輝行
会員数	58名		58名		53名		51名		50名	

きたみらい
種子馬鈴薯生産組合

平成25年度

移出用種子馬鈴薯では、府県産における一般作付け面積の減少とホームセンター需要の減少により、需要数量が減少し、全道共計対策として男爵を中心に食転や用途転用を取り進めた。

ホクレン本所での協議会

平成26年度

干ばつの影響はあったものの、一部地域のみとなり収量減少は最小限にとどまった。しかし一部品種において需要に対して種子が不足し、課題を残す結果となった。

総会の様子

平成27年度

全道的に好天に恵まれたことから収量も良好であった。移出用、更新用ともに需要が減退し、種子馬鈴薯の販売強化を図るためにも受託契約等の安定した販売ルートの確保に努める。

スノーマーチ

平成28年度

8月中旬以降の度重なる台風の影響により甚大な被害を受ける。種子馬鈴薯の作柄として総じて小玉傾向であり、そうか病や皮目肥大も見受けられた。

防疫検査のようす

平成29年度

シストセンチュウ蔓延防止対策の一環で、JA支援を受けた中で、海外観光客への啓蒙として一部地区で英字標記の大型看板を設置した。

順調な生育

平成30年度

生食用馬鈴しょの市況低迷をはじめ、府県産における農地の減少、生産者の高齢化により種子馬鈴薯の需給が減少。全道共計対策として一部品種の販売に苦慮したが、受託種子や町外販売を積極的に務めた。

JAそらち南を視察

令和1年度

更新用種子では一部でキズなどのクレームもあったが、食用馬鈴薯耕作者に対して全量正品規格での供給ができた。

共同抜き取りのようす

令和2年度

新型コロナウイルスにより生産組合の事業関係が相次いで中止となった。マレイン酸噴射装置付きポテトカッティングプランターによる播種体系の見直しを実施（試験による使用）。

カッティングプランター試験機

令和3年度

全道的な種子馬鈴薯の不作により、移出用及び更新用の需要が増加した中で、積極的な販売に取り組んだ。移出種馬鈴しょの全道共計精算単価が過去最高となる。

移出種馬鈴しょの品質確認

令和4年度

一般圃場でシストセンチュウが新規で確認され、種馬鈴しょ次年度作付予定圃場の土壌診断を実施した結果、種馬鈴しょ圃場での発生は確認されなかったが、あらためてPCNまん延防止対策の重要性を認識する。

カッティングプランターは種と慣行の比較試験

きたみらい麦作振興会

きたみらい麦作振興会

設　立　平成15年6月23日
会員数　554名
会　長　西原　勇一

主なできごと

2013.2.25	第１１回通常総会
2013.7.14～	施設操業委員会（操業期間　7.27～8.12）
2013.7.23	小麦収穫・施設操業安全祈願（小麦圃場巡回）
2013.10.22	役員会（ゆめちから作付協議）
2013.11.26～	役員道外視察研修（増田製粉、兵庫県手延素麺組合、大阪港埠頭ターミナル）
2014.2.28	第１２回通常総会
2014.7.14～	施設操業委員会（操業期間　7.26～8.18）
2014.7.22	小麦収穫・施設操業安全祈願（小麦圃場巡回）
2014.12.25～	役員道内視察研修（ホクレン農総研食品分析センター、横山製粉）
2015.3.9	第１3回通常総会
2015.7.7～	施設操業委員会（操業期間　7.24～8.13）
2015.7.13	コムギなまぐさ黒穂病発生に係る対応について
2015.7.18	小麦収穫・施設操業安全祈願（小麦圃場巡回）
2015.12.2～	役員道外視察研修（吉原食糧、香川県農業試験場、ヤマヒサ、石丸製麺）
2016.3.9	第１4回通常総会
2016.7.8～	施設操業委員会（操業期間　7.27～8.13）
2016.7.20・25	コムギなまぐさ黒穂病抜取圃場確認　（計３３筆）
2016.7.22	小麦収穫・施設操業安全祈願（小麦圃場巡回）
2016.9.6	正副会議　２９年産「きたほなみ」の播種遅延に伴う対応について
2017.2.17	第１5回通常総会
2017.7.3～	施設操業委員会（操業期間　7.27～8.13）役員会　コムギなまぐさ黒穂病全筆調査
2017.7.24	小麦収穫・施設操業安全祈願（小麦圃場巡回）
2017.11.26～12.1	海外生産流通研修会（オーストラリア「メルボルン・ジーロング他」１１名参加
2018.2.16	第１6回通常総会
2018.7.3～	施設操業委員会（操業期間　8.2～8.20）役員会　なまぐさ罹患圃場の解除条件ほか
2018.7.4～13	コムギなまぐさ黒穂病全筆調査（以後、各地区にて調査実施）
2018.7.9	小麦輸送会議（小麦輸送に係る基本事項について）以後、毎年実施
2018.7.27	小麦収穫・施設操業安全祈願（小麦圃場巡回）
2018.12.11～	道内視察研修（ホクレン本所麦類課、ホクレン長沼研究農場）
2019.2.15	第１7回通常総会
2019.７.6～	施設操業委員会（操業期間　7.24～8.7）
2019.７.18	小麦収穫・施設操業安全祈願（小麦圃場巡回）
2019.12.10～	道外視察研修（東福製粉、九州沖縄農業センター）
2020.2.18	第１8回通常総会
2020.7.3～	施設操業委員会（操業期間　7.29～8.13）
2020.7.10	正副会議（春まき小麦の登熟促進対策について）
2020.7.22	小麦収穫・施設操業安全祈願（コロナ禍により北見神社参拝）
2021.2.19	第１9回通常総会
2021.7.21～	施設操業委員会、安全祈願（操業期間　7.25～8.6）、役員会（コムギ萎縮病対応）
2022.2.18	第２０回通常総会
2022.4.7	役員会（米麦施設再編協議について　計４回）
2022.7.6～	施設操業委員会（操業期間　7.29～8.13）
2022.7.20	小麦収穫・施設操業安全祈願（操業委員による全地区圃場巡回）
2023.2.17	第２1回通常総会（歴代会長へ感謝状贈呈）

会員の絆をより強固に

きたみらい麦作振興会
会　長　**西原　勇一**

JAきたみらいがこの度、創立20周年を迎えられましたことを心からお祝い申し上げるとともに、記念事業の一環として記念誌が発行され、末永く後世にその歴史を記されますことは誠に意義深いことと敬意を表する次第です。また、きたみらい麦作振興会においても20周年を迎えることができ、これもひとえにJAきたみらい並びに関係機関各位皆さまのご支援の賜物と会員一同深く感謝申し上げます。

振り返りますと、合併当初より尽力されました歴代役員の皆さま方が一丸となり、将来ビジョンの設定と課題解決に向けて度重なる協議されたことが、今日ある麦作振興会の礎になっているものと私は思っております。その中でも小麦乾燥調製施設の再編整備と統一利用の実現は、施設の有効利用が可能になったことで、効率的な刈取体制の構築とコスト低減に結びつき、大きな成果をあげることができました。また、統一調製によって安定した良質麦の供給が可能となり一定の評価を得られております。

近年では、異常気象が頻発する傾向があることから、きたみらい地域で発生事例がなかった「コムギなまぐさ黒穂病」と「コムギ萎縮病」の予期せぬ病害が発生しました。拡散防止対策マニュアルの設定と励行により拡散防止に努めたことから「コムギなまぐさ黒穂病」は収束傾向にあります。会員皆さま方の重要病害虫拡散防止に向けた取り組みによるものと心より感謝申し上げます。

今日の農業を取り巻く情勢において、先行き不透明感が増大する状況にあり、依然として多くの課題があり試練の時を迎えております。しかし、今こそこの20年で培ってきた会員の絆を強固にして、これから先10年20年後の農業が今より良くなり、未来ある子供達やお年寄りが安心して暮らせる魅力ある農業を目指していきたいと思います。

結びに、ここに組合創立20周年を迎え、組合員・役職員の固い結集のもとで、益々発展されますようご祈念申し上げまして、お祝いのことばと致します。

会　長　**西原　勇一**

副会長　**渡部　剛**

副会長　**間村　辰彦**

役員一覧

	平成25年度		平成26年度		平成27年度		平成28年度		平成29年度		平成30年度	
役　職	地区	氏　名	地区	氏　名	地区	氏　名	地区	氏　名	地区	氏　名	地区	氏　名
会　長	訓	河合正福	訓	河合正福	訓	河合正福	上	西野　繁	上	西野　繁	上	西野　繁
副会長	端	伊藤正史	端	中林久志	端	中林久志	端	田中　勇	端	田中　勇	端	田中　勇
	上	西野　繁	上	西野　繁	上	西野　繁	訓	鳥山博司	訓	鳥山博司	訓	鳥山博司
理　事	温	羽場祐二	温	福崎波夫	温	福崎波夫	温	福崎波夫	温	福崎波夫	温	福崎波夫
	温	本條　覚	留	坂下　忠	留	坂下　忠	温	本條　覚	温	本條　覚	温	菅原精一
	留	坂下　忠	留	加藤昭義	留	加藤昭義	留	加藤昭義	留	加藤昭義	留	加藤昭義
	留	加藤昭義	置	高谷　勲	置	高谷　勲	置	遠藤弘文	置	遠藤弘文	置	遠藤弘文
	置	高谷　勲	置	大槻尚宏	置	大槻尚宏	置	齊藤貴浩	置	齊藤貴浩	置	渡部優也
	置	森谷弘二	訓	鳥山博司	訓	鳥山博司	訓	西原勇一	訓	西原勇一	訓	西原勇一
	訓	鳥山博司	相	松井秀樹	相	松井秀樹	相	川岸正志	相	川岸正志	相	星加幸司
	相	松井秀樹	相	川岸正志	相	川岸正志	上	水留靖典	上	水留靖典	上	渡部　剛
	上	吉村静一	上	水留靖典	上	水留靖典	北	福田保志	北	福田保志	北	福田保志
	北	福田保志	北	福田保志	北	福田保志	北	岡見博文	北	岡見博文	北	岡見博文
	端	中林久志	端	田中　勇	端	田中　勇	端	松下朗弘	端	松下朗弘	端	武田健一
監　事	相	北村栄治	北	石原正勝	北	石原正勝	留	坂下　忠	留	坂下　忠	留	坂下　忠
	北	石原正勝	温	本條　覚	温	本條　覚	相	松井秀樹	相	松井秀樹	相	松井秀樹
会員数	768名		746名		732名		683名		657名		680名	

	令和1年度		令和2年度		令和3年度		令和4年度		令和5年度	
役　職	地区	氏　名	地区	氏　名	地区	氏　名	地区	氏　名	地区	氏　名
会　長	上	西野　繁	端	田中　勇	端	田中　勇	訓	西原勇一	訓	西原勇一
副会長	端	田中　勇	訓	西原勇一	訓	西原勇一	上	渡部　剛	上	渡部　剛
	訓	鳥山博司	上	渡部　剛	上	渡部　剛	端	間村辰彦	端	間村辰彦
理　事	温	福崎波夫	温	山崎清二	温	山崎清二	温	山崎清二	温	山崎清二
	温	菅原精一	温	岩橋幸一	温	岩橋幸一	置	岡田　章	置	岡田　章
	留	加藤昭義	留	茂住修二	留	茂住修二	相	伊藤　薫	相	伊藤　薫
	置	遠藤弘文	留	坂下　忠	留	坂下　忠				
	置	渡部優也	置	渡部優也	置	渡部優也				
	訓	西原勇一	置	井上一味	置	井上一味				
	相	星加幸司	訓	山本拓志	訓	山本拓志				
	上	渡部　剛	相	伊藤　薫	相	伊藤　薫				
	北	福田保志	上	角田大造	上	角田大造				
	北	岡見博文	北	岡見博文	北	岡見博文				
	端	武田健一	端	間村辰彦	端	間村辰彦				
監　事	留	坂下　忠	北	福田保志	北	福田保志	北	岡見博文	北	岡見博文
	相	松井秀樹	相	星加幸司	相	星加幸司	留	茂住修二	留	茂住修二
会員数	609名		598名		583名		556名		554名	

平成25年度

6月以降、気温が高めに推移し、秋小麦で登熟期は早まり、春小麦は8月上中旬に低温で推移し、断続的な降雨により一部で穂発芽が発生、麦全体でも収量は平年を下回った。事業活動は圃場巡回・視察研修など役員・代議員の情報交換を図り、実需者・関係機関とも情報交換を図りながら、新品種の作付けについても協議検討した。

10a当たり平均収量　秋小麦503kg・春小麦375kg・大麦204kg

春を待つ、雪解けが進む小麦畑

平成26年度

融雪の遅れにより秋小麦で一部冬枯れ圃場が散見され、起生期は大幅に遅れた。秋小麦の収穫時期は好天に恵まれたが、春小麦の収穫は断続的降雨の中で刈取りが行われ、一部に穂発芽、黒カビの発生が確認され、品質面で課題を残した。事業面では「食品」として道産小麦を販売推進することを意識し、施設操業のコスト低減に向けて、受入作業の効率化に向けて取り組んだ。

10a当たり平均収量　秋小麦531kg・春小麦465kg・大麦290kg

小麦圃場

平成27年度

秋小麦は7月上旬が冷涼に推移したため、登熟が緩やかに経過し、結果豊作基調となり、春小麦については収穫後半の降雨により、一部で穂発芽による品質低下が見受けられた。又、前年より懸念事項であったタンパクの低下は改善された。秋小麦で3筆「なまぐさ黒穂病」の発生が確認されたことから、役員会にて発生時の対応について協議検討した。

10a当たり平均収量　秋小麦668kg・春小麦459kg・大麦365kg

小麦施設前での収穫作業

平成28年度

7月が比較的冷涼に推移したため、登熟期間が長くなり、昨年並みの収量を確保できたが、昨年発生した「なまぐさ黒穂病」については全地域に拡大し、深刻な問題となった。春小麦は成熟前の早い段階から倒伏する圃場が散見され細麦傾向となり、調製に苦慮した年産となった。事業活動も病害の多発など予期せぬ事態に労力を費やした年産となった。

10a当たり平均収量　秋小麦668kg・春小麦472kg・大麦364kg

サンプル採取の様子

平成29年度

7月上中旬が高温で推移したことから成熟が急速に進み、登熟期間はかなり短くなり、結果、収量に大きく影響した。昨年、発生が拡大した「コムギなまぐさ黒穂病」は連作、極端な遅まきの回避等の耕種的な対策と併せて、出芽後の防除効果で被害は大幅に減少した。大麦は本年産をもって、サッポロビールとの契約栽培を終了した。事業面では競合国であるオーストラリアにおいて「海外生産流通研修」を行い、生産コスト低減の重要性を強く感じる研修となった。

10a当たり平均収量　秋小麦582kg・春小麦377kg・大麦262kg

オーストラリアの農場にて（H29年度海外視察）

平成30年度

6月から7月中旬にかけ断続的な降雨と寡照の影響で秋小麦の生育は遅れたが、7月後半より高温で推移し、成熟は一斉に進んだ。春小麦は成熟が遅れ、8月11日からの収穫開始となり、高水分の未熟粒が多く、調製に苦労した年産となった。活動面では良質小麦の安定生産を図るため「秋小麦の高タンパク値改善」と「春小麦の低タンパク値対策」といった品質改善に重点をおき、精算基準の見直しを行った。又、なまぐさ黒穂病の罹患圃場についての解除条件を設定した。

10a当たり平均収量　秋小麦612kg・春小麦401kg

海外研修での記念撮影

令和1年度

大きな気象変動に見舞われることもなく登熟を迎え、収穫期も好天が続き、秋小麦は平年を大きく上回る収量を確保、製品歩留も93.7%と高かった。一方、春小麦は降雨により、収穫作業が一時中断を余儀なくされ、降雨前と後で大きく品質が異なった。本会活動として、衛星リモートセンシングシステムを活用した適期刈取の実施、良質小麦の安定生産・高位平準化を目的とした「春まき小麦適期収穫に向けたガイドライン」を制定した。

10a当たり平均収量　秋小麦665kg・春小麦477kg

道外研修（東福製粉にて）

令和2年度

4月～5月が低温で生育はかなり遅れ、秋小麦の一部圃場にて「コムギ縞萎縮病」が発生、又、開花期に降雨、曇天が続き、葉枯病が確認された。春小麦は刈取終盤の猛暑により急激に登熟が進み青未熟粒の混入はあったが、全量1等Aランクで調製を終えた。本会の活動として、春小麦の適期収穫に向けた「登熟促進剤」の取組みを実施した。コロナ禍の影響により、視察研修など一部活動を自粛するなど、制限された中で事業推進を図った。

10a当たり平均収量　秋小麦665kg・春小麦477kg

きたみらい産小麦を使った「麦まるごとうどん」

令和3年度

干ばつで経過したものの、大きな気象変動に見舞われることなく登熟を迎えたが、播種が早く根雪まで気温が高かったことから、秋小麦の一部圃場で「コムギ萎縮病」が本年初めて確認された。収穫期は好天に恵まれ、小麦全体で過去最高レベルの収量となった。事業面では引き続き、コロナ禍で活動が制限されたが、麦施設操業面で新たに「小麦収穫輸送支援システム」の実証試験に取り組み、コンバイン及び輸送トラックの位置情報を可視化し効率的な刈取体制の構築を進めた。

10a当たり平均収量　秋小麦724kg・春小麦490kg

青空の下で進む収穫作業

令和4年度

5月下旬は降雨が続き、6月は低温、7月は高温となり、成熟は一気に進み、結果、秋小麦で平年を下回る収量となった。春小麦は細麦傾向であったものの、平年並みの収量を確保し、全量1等Aランクとなった。更なる良質小麦生産と将来を見越した施設のあり方を協議し、「米麦施設再編」に向けて検討を図った。又、近年、土壌病害虫が増加する傾向にあるため、蔓延防止対策として、全地域で小麦収穫コンバインの足回り洗浄を次年度から実施することを決定した。

10a当たり平均収量　秋小麦585kg・春小麦451kg

収穫・施設操業の安全を祈願

きたみらいてん菜振興会

きたみらいてん菜振興会

設　立　平成15年4月7日
会員数　467名
会　長　菅波　嘉津人

主なできごと

2013.3.26	第11回通常総会
2013.6.17	役員会（遊離土処理アンケート調査結果検討）
2013.6.28	圃場視察（佐呂間町）
2013.11.28	視察研修（十勝農試、日甜清水紙筒工場、日本気象協会北海道支社）
2014.3.20	第１２回通常総会
2014.6.25	圃場視察（網走市：オホーツク網走第20営農集団利用組合）
2014.9.10	役員会（増反対策、輸送計画ほか）
2014.12.1～	府県視察研修（農林水産省、三井製糖千葉工場、農畜産業振興機構）
2015.3.20	第１３回通常総会
2015.6.26	視察研修（ホクレン女満別種子工場、種子圃場視察）
2015.9.10	役員会（代議員定数見直し協議、輸送計画ほか）
2015.12.3～	視察研修（東洋農機、JA北海道中央会、札幌管区気象台）
2016.3.23	第１４回通常総会
2016.6.24	圃場巡回（JA管内優良圃場）
2016.11.30～	府県視察研修（農林水産省、シンジェンタ、味の素）
2017.3.24	第15回通常総会
2017.6.23	圃場巡回（訓子府ホクレン実証農場、上常呂品種比較試験圃場）
2017.7.18	役員会（シート被覆ルールの設定について）
2017.11.29～	視察研修（雪印種苗、北海道病虫害防除所、ホクレンてん菜業務課）
2018.3.23	第16回通常総会
2018.6.23	先進地視察（津別狭畦栽培・大型収獲機、美幌収穫機）全体交流会
2018.10.15	先進地視察研修（大型収穫機の作業状況確認）
2018.12.4～	府県視察研修（農林水産省、三井製糖、北糖東京本社、豊洲市場）
2019.3.20	第17回通常総会
2019.6.28	先進地視察研修（北糖試験圃場、北見農業試験場、生産者圃場）
2019.12.5～	視察研修（ニューホーランド苫小牧デポ、中央会、住友化学）
2020.4.10	第18回通常総会
2020.6.30	役員会（トラック不足に伴う輸送計画策定）圃場巡回（北糖試験圃場）
2021.3.18	第19回通常総会（新型コロナ感染症対策として書面議決にて開催）
2021.4.13	役員会（病害虫蔓延防止対策に係る輸送ルールについて）
2022.1.13	正副会長会議（緊急対策事業について、令和3年てん菜輸送の反省点）
2022.3.17	第20回通常総会（書面議決開催）
2022.11.28～	視察研修（ホクレン本所、北糖本社、エム・エス・ケー農業機械本社）
2023.3.17	第21回通常総会（歴代会長に感謝状贈呈）

会員と共に「技術の研鑽と結集」

きたみらいてん菜振興会
会　長　　菅波　嘉津人

この度、きたみらい農協設立20周年を迎えられましたことに対し、心よりお祝い申し上げます。

また、これまで組織運営にご尽力いただきました歴代の役員、会員、事務局の皆様方には深く感謝と敬意を申し上げます。

この10年間を振り返ってみますと、てん菜においては、様々な課題や問題に直面してきました。気象面では温暖化や集中豪雨など気候変動により、収量や糖分にも影響を受け、原料輸送においては、恒常的なトラック運転手不足や働き方改革により、受入期間の延長を余儀なくされ、会員各位の理解もあり、原料貯蔵に加えて、早期出荷にも取り組んで参りました。

さらに、近年の物価高騰により、肥料を含む生産資材コストは急激に上昇し、生産費負担が大きい「てん菜栽培」は特に敬遠されており、そこに追い打ちをかけるように、砂糖の需要が減少する中、国の政策として、てん菜糖の交付対象数量を令和8年度までに55万㌧まで段階的に引き下げる方針が示され、きたみらい管内のてん菜面積は3千haを割り込み、かつてない危機を迎えております。時代の流れから、栽培方法も移植から直播中心へ、大型機械収穫による狭畦栽培へと変化しつつありますが、「良質で高糖分のてん菜づくり」への思いはいつの時代も変わりありません。

てん菜は輪作体系上重要な作物であることから、作付面積の確保を最重要課題とし、会員及び関係機関が結集し、創意工夫のもと、この難局を乗り越えていきたいと思います。

最後になりますが、組合員、役職員、さらには各関係機関と連携し、今後、ますます「みらい」へ向かって歩む、JAきたみらいに期待を込めまして、お祝いの言葉とさせていただきます。

会　長　菅波　嘉津人

副会長　村上　孝幸

副会長　引地　隆之

役員一覧

	平成25年度		平成26年度		平成27年度		平成28年度		平成29年度		平成30年度	
役　職	地区	氏　名	地区	氏　名	地区	氏　名	地区	氏　名	地区	氏　名	地区	氏　名
会　長	訓	小林一明	北	原　智徳	北	原　智徳	北	原　智徳	北	原　智徳	北	原　智徳
副会長	北	原　智徳	訓	古沢栄一	訓	古沢栄一	訓	古沢栄一	訓	古沢栄一	訓	須河和紀
	端	武田　剛	端	落井秀雄	端	落井秀雄	上	澤田正直	上	澤田正直	置	江岸孝博
理　事	温	牧野篤嗣	温	五十嵐正博	温	五十嵐正博	温	藤谷　農	温	藤谷　農	温	森谷和幸
	置	中沢博之	置	江岸孝博	置	江岸孝博	留	斉藤博文	留	斉藤博文	置	松崎真也
	訓	古沢栄一	訓	須河和紀	訓	須河和紀	置	奥山拓博	置	奥山拓博	訓	菅波嘉津人
	相	矢田目孝裕	相	井下　徹	相	井下　徹	訓	須河和紀	訓	須河和紀	相	高橋秀幸
	上	澤田正直	上	澤田正直	上	澤田正直	相	井下　徹	相	井下　徹	上	長山和弘
	北	西原　宏	北	西原　宏	北	西原　宏	北	西原　宏	北	西原　宏	北	西原　宏
	端	落井秀雄	端	鷲見博樹	端	鷲見博樹	端	吉田章一	端	吉田章一	端	石川敬朗
監　事	留	堂本鎌造	留	堂本鎌造	留	堂本鎌造	置	江岸孝博	置	江岸孝博	留	斉藤博文
	置	河野由文	置	広中和幸	置	広中和幸	端	鷲見博樹	端	鷲見博樹	端	吉田章一
会員数	631名		615名		603名		546名		578名		549名	

	令和1年度		令和2年度		令和3年度		令和4年度		令和5年度	
役　職	地区	氏　名	地区	氏　名	地区	氏　名	地区	氏　名	地区	氏　名
会　長	北	原　智徳	上	長山和弘	上	長山和弘	訓	菅波嘉津人	訓	菅波嘉津人
副会長	訓	須河和紀	訓	菅波嘉津人	訓	菅波嘉津人	留	村上孝幸	留	村上孝幸
	置	江岸孝博	留	村上孝幸	留	村上孝幸	北	引地隆之	北	引地隆之
理　事	温	森谷和幸	温	森谷和幸	温	森谷和幸	温	森谷和幸	温	森谷和幸
	置	松崎真也	置	齊藤貴浩	置	齊藤貴浩	訓	田中盛和	訓	田中盛和
	訓	菅波嘉津人	置	松崎真也	置	松崎真也	相	田中　圭	相	田中　圭
	相	高橋秀幸	訓	田中盛和	訓	田中盛和	上	檜森　真	上	檜森　真
	上	長山和弘	北	引地隆之	北	引地隆之				
	北	西原　宏	端	石川敬朗	端	石川敬朗				
	端	石川敬朗	端	高橋博幸	端	高橋博幸				
監　事	留	斉藤博文	相	高橋秀幸	相	高橋秀幸	置	齊藤貴浩	置	齊藤貴浩
	端	吉田章一	北	西原　宏	北	西原　宏	端	五十嵐 亨	端	五十嵐 亨
会員数	541名		518名		498名		471名		467名	

きたみらい てん菜振興会

平成25年度

移植時の低温と5月下旬から8月上旬まで干ばつの影響から生育は大幅に遅れ、収量に大きく影響した。てん菜輸送は台風による大雨と一部地域では降雪により遅れた。事業活動として、圃場巡回・視察研修を実施し、役員及び代議員の情報交換を図るとともに、遊離土処理の方向性や面積確保対策など諸問題について協議検討を図った。

10a当たり平均収量　4,878kg・糖分16.8％

ハウスでの苗床管理の様子

平成26年度

植付け後は直播圃場を中心に風害や干ばつの影響を受け、発芽不良も散見された。5月下旬から8月上旬まで高温傾向が続き、テンサイ西部萎黄病が多発した。大きな気象災害もなく、収穫期間中も天候に恵まれ、計画通りに輸送することができた。近年の中では収量・糖分とも高く、基準糖分の見直しや交付金単価の増額もあり、てん菜生産の優位性が実感できる年産となった。

10a当たり平均収量　5,626kg・糖分17.7％

補植作業

平成27年度

5月下旬の局地的な強風で被害を受けた圃場は再播を余儀なくされたが、6月以降は適度な雨と冷涼な気候から、生育は順調に進んだ。原料輸送は、予想を上回る生産量と細断が進まなかった事で12月28日まで要した。全道的にも豊作で、畑産糖量は支援対象数量の64万tを上回る、68.5万tとなった。19年産より減少が続いていた作付面積が9年ぶりに増加した。

10a当たり平均収量　6,024kg・糖分17.5％・直播比率43.3％

製糖工場での原料受入の様子

平成28年度

8月までは天候にも恵まれ順調に生育していたが、お盆過ぎからの度重なる台風と長引く降雨の影響により、多くの地域で冠水・浸水など大きな被害を受け、黒根病・褐斑病が急速に蔓延した。収穫が始まるころには地上部は健全に見えても腐敗根が多く散見され、てん菜耕作の場面において過去にない困難な年産となった。生産性向上のための課題が多く確認できる年産となり、振興会として結果の分析・検証に取り組んだ。

10a当たり平均収量　4,056kg・糖分16.3％・直播比率46.5％

府県視察研修（味の素にて）

平成29年度

6月に入ると低温・長雨・日照不足、7月は高温による生育停滞、8月から収穫時期まで干ばつ傾向となり、根重増加が進まず、収量は地域差・個人差が大きく広がった年産となった。品質管理について耕作者個々が原点に立ち返り、シート被覆の徹底に取り組み、原料輸送は計画通りに進んだ。本年産は他産地の豊作傾向により、支援対象数量64万ｔを超える産糖量となった。

10a当たり平均収量　5,157kg・糖分17.6％・直播比率48.1％

北海道糖業北見製糖所

平成30年度

序盤の天候は順調であったものの、6月から7月中旬頃までの低温・多雨・日照不足により、一部圃場で湿害による黄化症状が散見され、生育の停滞が見られた。全道的な作付面積減少(きたみらい管内：前年から281ha減少）により、全量が支援対象数量内での精算となったが、圃場間格差も大きく、早期播種・定植の実施と湿害回避の為の栽培技術の重要性を再確認した。

10a当たり平均収量　5,171kg・糖分17.6%・直播比率49.8%

平成30年道外視察研修　農水省にて

令和1年度

5月下旬に数日間にわたる強風により、きたみらい管内で約100haが再播種するなど大きな被害となった。6月以降は好天に恵まれたことから生育は順調に推移し、病害虫の発生も少なく、茎葉及び根部は健全な状況を維持し、結果、豊作年となった。原料輸送では法定休日取得や公共事業等に伴い、輸送トラック台数の確保が厳しい状況が続いており、予定外の農家貯蔵をお願いする場面もあったが、12月30日に無事輸送を完了することができた。

10a当たり平均収量　6,668kg・糖分17.2%・直播比率51.7%

令和元年　圃場視察にて

令和2年度

5月下旬以降の高温と6月以降の適度な降雨により生育は良好に進んだ。その後の生育も順調に進んだが、8月下旬の降雨により急激に肥大したことから、糖分は平年よりもやや低い傾向となった。原料輸送ではトラックの確保が厳しい状況から、昨年より2日早めて、全体で早期出荷への取り組みを行うことで、無事輸送を完了することができた。組織活動としては新型コロナウイルス感染症の影響により、視察研修の実施を見送るなど、一部の予定を自粛した。

10a当たり平均収量　6,201kg・糖分16.7%・直播比率51.7%

大型ハーベスターによる収穫作業

令和3年度

5月に入ると断続的な降雨により、各地区ではクラストと低温による発芽不良が発生し大きな被害となった。7月～8月上旬にかけては極端な高温・早魃で推移しとことから肥大は停滞した。原料輸送については恒常的なトラックの運転手不足や働き方改革からの休憩・休日取得の義務等により、早期出荷を実施し対応した。コロナ禍が収束しない状況から、圃場巡回や現地講習会、視察研修など昨年に引続き自粛した。

10a当たり平均収量　6,054kg・糖分16.4%・直播比率58.5%

工場土場に運ばれたてん菜原料

令和4年度

4月下旬には暴風・低温、その後の旱魃から、一部圃場で直播は発芽遅れや発芽ムラ、移植は活着不良・枯死状態となった。更に6月には降雹や豪雨から、茎葉損傷・流亡等の被害が発生し、一部圃場で廃耕も余儀なくされるなど、厳しい気象背景の中での生育となった。その後、圃場間格差はあるものの、好天に恵まれ、生育は順調に回復した。組織活動では11月に役員による道内視察を実施し、関係機関と産地の現状と課題、てん菜をめぐる今後の課題整理を行った。

10a当たり平均収量　6,408kg・糖分16.3%・直播比率62.9%

すくすくと育ったてん菜

きたみらいもち米振興会

きたみらいもち米振興会

設　立　平成15年4月16日
会員数　97名
会　長　畑中　利男

主なできごと

2013.3.28	第１１回通常総会
2013.7.3	各地区圃場巡回
2013.8.28～	施設操業委員会（計３回実施）米受入期間（9.16～10.7）
2013.11.25～	消費地視察研修（中央軒煎餅、越後製菓、きむら食品）
2014.3.27	第１２回通常総会
2014.7.1	施設・圃場巡回（北見RT端野施設巡回、米試験圃巡回）
2014.8.28～	施設操業委員会（計4回実施）米受入期間（9.16～10.6）
2014.12.3～	消費地視察研修（中央軒煎餅、群馬製粉、ホクレン販売本部）
2015.3.26	第１３回通常総会
2015.7.1	各地区圃場、試験圃巡回
2015.9.9～	施設操業委員会（計3回実施）米受入期間（9.25～10.15）
2015.11.30～	消費地視察研修（越後製菓、佐藤食品工業、木徳神糧、ホクレン）
2016.3.9	良質米安定確収技術講習会（コロナ禍以外毎年開催）
2016.3.25	第１4回通常総会
2016.6.29	圃場巡回（水稲試験圃場ほか４圃場）
2016.9.15～	施設操業委員会（計３回実施）米受入期間（9.24～10.13）
2016.12.5～	消費地視察研修（佐藤食品、千田みずほ工場、ホクレン販売本部）
2017.3.22～	第１5回通常総会
2017.9.15～	施設操業委員会（計3回実施）米受入期間（9.25～10.11）
2017.10.18	北見ハーフマラソンもち米配布
2017.12.４～	消費地視察研修（佐藤食品佐賀工場、中央軒煎餅、全農）
2017.12.25	北見市、訓子府町、置戸町へ鏡餅贈呈（毎年贈呈）
2018.3.20～	第１6回通常総会
2018.7.3～	道内視察研修（胆振普及センター、当別町スマート農業実証圃、上川普及センター）
2018.9.21～	施設操業委員会（計２回実施）米受入期間（9.27～10.19）
2018.12.3～	消費地視察研修（ホクレン東京支店、株式会社むらせ、株式会社サタケ）
2019.3.18	第１7回通常総会
2019.6.24	現地講習会（訓子府、相内、端野　三会場で開催）
2019.7.2～	道内視察研修（中央農試岩見沢試験圃、ホクレン本所、上士別大区画水田ほか）
2019.9.14～	施設操業委員会（計２回実施）米受入期間（9.20～10.9）
2019.12.4	消費地視察研修（ホクレン東京支店、アルファー食品、群馬製粉）
2020.4.9	第１8回通常総会
2020.6.29	現地講習会（上常呂、訓子府、相内、端野　四会場で開催）講師：上川農試他
2020.9.7～	施設操業委員会（計２回実施）米受入期間（9.14～10.6）
2021.3.17	第19回通常総会
2021.8.30	施設操業委員会（計２回実施）米受入期間（9.6～9.26）
2021.12.10	ホクレン訪問（正副会長、本所原料課ともち米をめぐる情勢について意見交換）
2022.3.18	第20回通常総会
2022.4.15	役員会（米麦施設再編について、以後２回協議）
2022.6.30～	道内視察研修（ホクレン本所、長沼町基盤整備水田視察）
2022.7.22	小学校への食育活動（湧別町 富美小学校へ水稲栽培授業）
2022.8.7	ハスまつり2022にて餅まきを実施
2022.9.12～	施設操業委員会（計２回実施）米受入期間（9.17～10.6）
2022.12.8～	ホクレン本所訪問（４年産の産地報告及びもち米動向と情勢について）
2023.1.23～	消費地視察研修（全農パールライス西日本、ホクレン大阪支店）
2023.2.10	北見厳寒の焼肉まつりにて来場者へ餅配布（PR）
2023.3.13	第21回通常総会（歴代会長へ感謝状贈呈）

安定の品質・安定の収量

きたみらいもち米振興会
会　長　畑中　利男

きたみらい農協が平成15年2月に誕生し、水稲生産者組織連絡協議会より始まり、現在のもち米振興会となって20年、節目となる今日を迎える事ができるのも会員皆様のご尽力によるものと思ってなりません。

10年前、約７５０ヘクタールあった水張面積も現在６５０ヘクタールを下回る現況となり、年々減少傾向にある状況ですが、歯止めがかかるよう振興会としても地域の協力を得ながら取り進めなければならない思いです。

ここ数年、「きたゆきもち」の作況を見て思う事は、諸先輩方が苦労してきた課題や問題点が少しずつ解消され、尚且つ良い方向に向かっているということ。数年に一度の冷害、病気に弱い品種、胴割れ粒による品質低下など、網走管内特有のオホーツク海高気圧による6月の曇天、それに伴う低温により移植後はほぼ分けつしないまま7月の開花期を迎えるといったことが頻繁にあり、ご苦労されてきたかと思います。

近年では、病害虫予防の基幹防除も各地区ドローン、ラジコンヘリ、ビークルなどで適期防除を行い発生予防に努め、品質を大きく低下させている胴割れ粒に対しても、施設にて刈取サンプルを確認しながら慎重に調製を行うなど、これまでの課題に対し、しっかりとした対応を行うように取り進めているところです。

また、直近の課題として、端野施設の老朽化が進んでおり、今後における施設再編の方針について判断が迫られているところですが、会員皆様のご理解ご協力を得ながら少しずつ前に進んでおり、北見広域米麦センターでの全量受入に向け取り進めているところです。

「きたゆきもち」は、収量や食味において実需者から一定の評価を得られています。その評価を裏切ることがない様、今後も会員皆様のご協力の程宜しくお願いします。

最後になりますが、様々な面で改革や改善が行われている現状ですが、今後のきたみらい農業協同組合の更なる躍進をご祈念申し上げお祝いの言葉に代えさせていただきます。

会　長　畑中　利男

副会長　山田　孝幸

副会長　福田　堅一

役員一覧

	平成25年度		平成26年度		平成27年度		平成28年度		平成29年度		平成30年度	
役　職	地区	氏　名	地区	氏　名	地区	氏　名	地区	氏　名	地区	氏　名	地区	氏　名
会　長	相	森谷雅美	端	沼﨑栄治	端	沼﨑栄治	端	沼﨑栄治	端	沼﨑栄治	端	沼﨑栄治
副会長	北	安斉秀一	相	高橋　正	相	高橋　正	訓	島貫　亨	訓	島貫　亨	相	畑中利男
	上	砂野政美	訓	島貫　亨	訓	島貫　亨	相	畑中利男	相	畑中利男	訓	島貫　亨
理　事	訓	島貫　亨	訓	黒河　潤	訓	黒河　潤	訓	黒河　潤	訓	黒河　潤	訓	茂呂竹 透
	相	川岸正志	相	畑中利男	相	畑中利男	相	高橋　正	相	高橋　正	相	小林正明
	上	加藤　塁	上	黒河英美	上	黒河英美	上	佐藤禎美	上	佐藤禎美	上	木村和則
	北	市田啓一	北	小野俊浩	北	小野俊浩	北	小野俊浩	北	小野俊浩	北	小野俊浩
	端	山田孝幸	端	山田孝幸	端	山田孝幸	端	山田孝幸	端	山田孝幸	端	山田孝幸
監　事	訓	細川孝雄	北	市田啓一	北	市田啓一	北	市田啓一	北	市田啓一	北	市田啓一
	端	落井信久	上	加藤　塁	上	加藤　塁	上	加藤　塁	上	加藤　塁	上	加藤　塁
会員数	174名		162名		152名		145名		137名		123名	

	令和1年度		令和2年度		令和3年度		令和4年度		令和5年度	
役　職	地区	氏　名	地区	氏　名	地区	氏　名	地区	氏　名	地区	氏　名
会　長	端	沼﨑栄治	相	畑中利男	相	畑中利男	相	畑中利男	相	畑中利男
副会長	相	畑中利男	訓	島貫　亨	訓	島貫　亨	端	山田孝幸	端	山田孝幸
	訓	島貫　亨	端	山田孝幸	端	山田孝幸	上	福田堅一	上	福田堅一
理　事	訓	茂呂竹 透	訓	茂呂竹 透	訓	茂呂竹 透	訓	宮本卓也	訓	宮本卓也
	相	小林正明	相	小林正明	相	小林正明	相	小林正明	相	小林正明
	上	木村和則	上	田井和重	上	田井和重	上	田井和重	上	田井和重
	北	小野勝生	北	小野勝生	北	小野勝生	北	小野勝生	北	小野勝生
	端	山田孝幸	端	中田倫生	端	中田倫生	端	中田倫生	端	中田倫生
監　事	北	市田啓一	北	市田啓一	北	市田啓一	訓	茂呂竹 透	訓	茂呂竹 透
	上	加藤　塁	上	福田堅一	上	福田堅一	北	穴田和宏	北	穴田和宏
会員数	119名		107名		102名		100名		97名	

平成25年度

幼穂形成期の高温多照により分げつも急速に有効化し、出穂も早まったが、収穫期は断続的な雨が続き、収穫作業は大変苦労した年産となった。登熟のバラつきと一部でいもち病も散見されるなど、収量も心配されたが、管内の作況指数は109と4年連続の豊作となった。

作況指数109　10a当たり平均収量　538kg

田植え作業

平成26年度

1年を通じて、比較的天候にも恵まれ、花粉の充実度も良好であり、昨年発生の多かったいもち病も適切な発生予察と防除の徹底により、ほぼ抑えることができた。しかし、収穫期の受入水分が高く、胴割粒発生による品質低下を予見されたことから、刈取制限を行うなど調整しながら品質確保を図り、結果、昨年を上回る、5年連続の豊作年となった。

作況指数115　10a当たり平均収量　612kg

道外研修（中央軒煎餅にて）

平成27年度

登熟中期以降、日照不足・低温により、籾の黄化進度が急激に減速し、登熟は停滞、平年より13日遅れの収穫開始となった。収穫期間中も暴風により倒伏、台風により圃場条件は悪化し、刈取は遅れ、胴割粒の発生も多い年産となった。役員による道外視察については実需先である新潟の佐藤食品工業、越後製菓などを研修し、もち米の消費情勢などを把握した。

作況指数111　10a当たり平均収量　618kg

田植えを体験する子供たち

平成28年度

6月の低温・寡照と強風による植え痛みにより、初期生育は停滞、分げつの発生が緩慢となり、8月には4度の台風が上陸するなど、出来秋が非常に心配された年産だったが、肥培管理の徹底から平年並みの収量と胴割粒の発生はほぼなく、品質・収量の両面で産地責任を果たすことができた年産となった。

作況指数108　10a当たり平均収量　559kg

圃場巡回にて

平成29年度

移植作業は天候に恵まれ、平年より3日程度早く終了した。冷害危険期に低温を受けたものの、7月後半からの好天が続き、不稔は少なく、高い稔実籾数を確保した。又、胴割粒対策に取り組んだ結果、昨年同様にほぼ見られず、良品質なもち米を確保した。振興会事業として、道外研修を実施し、実需・関係機関と意見交換を行い、もち米の需要拡大について協議した。

作況指数105　10a当たり平均収量　568kg

もち米の収穫作業

平成30年度

低温・寡照の影響から、圃場間格差による穂揃いのバラつきが解消できず、作況は平年を下回った。収穫作業は度重なる台風の到来により、4日間の受入中止を余儀なくされ、穂水分は低下しないまま、刈取は完了した。胴割粒と青未熟粒が多く、整粒率確保のため、最終的な製品率は79%となった。振興会活動として、各地区代議員を参集範囲として道内視察を実施した。

作況指数91　10a当たり平均収量　480kg

秋の稔りに感謝

令和1年度

苗の生育は5月25日の記録的な高温により、徒長する苗も見受けられたが、その後の天候により、出穂・開花など順調に生育した。9月に入り好天が続き、成苗で胴割粒の発生が懸念されたことから、昨年より1週間早い刈取を開始した。調製作業については昨年導入した最新鋭の「色彩選別機」をフル活用し、全量1等にすることができた。又、本年産から特別栽培米が作付中止となり、取扱いが統一された。

作況指数100　10a当たり平均収量　601kg

ダンプへの搬出作業

令和2年度

移植後は好天に恵まれ活着は良好、6月は高温・多照で推移、出穂期は平年並みで、8月も高温で登熟は良好で推移したが、一部圃場で成熟期が早まり、胴割粒が発生した。団地化による高品質・安定供給に対する高い評価から、コンビニ各社のおこわ、包装餅等、多岐に亘り需要を獲得。振興会活動は新型コロナウイルス感染症の動向に注視しながら、現地講習会のみ実施。

作況指数107　10a当たり平均収量　639kg

ハスまつりに協賛「餅まき」の様子

令和3年度

1年を通じて、高温多照で推移し、特に7月・8月は高温干ばつで経過したことから、成熟期は平年より大きく早まった。刈り遅れに伴う胴割れの発生を回避するため、判定会議を開催し、9月6日から刈取を開始した。結果、過去最高レベルの収量を確保することができた。販売面については、長期化するコロナ禍の影響により米全体の環境は非常に厳しい状況となった。

作況指数113　10a当たり平均収量　680kg

北見厳冬の焼き肉まつりにて「もち米」のPR

令和4年度

6月の日照不足、7月下旬からの低温により出穂はバラついたが、収量は平年以上を確保した。未熟粒がやや多く発生したことから、網下の発生比率は昨年より高くなったが、色下の発生が少なく、全体的に品質は良好となった。コロナ禍で需要回復に向け、消費拡大に向けた販売促進や地元イベントへの協賛、食育活動など、地域貢献活動を積極的に展開。

作況指数104　10a当たり平均収量　618kg

地元産「きたゆきもち」を市内スーパーにて販促

きたみらい豆類振興会

きたみらい豆類振興会

設　立　平成15年6月30日
会員数　286名
会　長　石川　修

主なできごと

2013.2.26	第11回通常総会
2013.7.4～	道内視察研修（（株）藤井、ホクレン本所、石狩穀物調製センター）
2013.7.17	北見地区・上常呂地区合同現地講習会
2013.8.26	圃場巡回（きたみらい管内）
2013.12.3～	府県市場視察（大西商事、（株）もち吉）
2013.12.12	豆類料理研修会　（講師：穀物アドバイザー　辻本宣子氏）
2014.2.19	第12回通常総会
2014.6.12	全体交流会　50名参加
2014.7.3～	道内視察研修（北興化学工業、北海道試験場、ホクレン本所、MSK）
2014.11.27～	消費地視察研修（ホクレン福岡支店、明月堂、大西商事）
2014.12.12	豆類料理研修会　（講師：穀物アドバイザー　辻本宣子氏）
2015.2.25	第１３回通常総会
2015.6.10	全体交流会　48名参加
2015.7.9～	道内視察研修（北海道クボタ、ホクレン本所雑穀課、株式会社丸勝）
2015.11.25～	消費地視察研修（(有)北川製餡所、明月堂、大西商事）
2015.12.11	豆類料理研修会　（講師：穀物アドバイザー　辻本宣子氏）
2016.2.16	大豆栽培講習会
2016.2.19	第１４回通常総会
2016.6.10	全体交流会　44名参加
2016.11.29～	消費地視察研修（阿部商事、むら雲堂本舗、明月堂、大西商事）
2017.2.24	第15回通常総会
2017.6.8	全体交流会・豆類一般情勢報告会　51名参加
2017.7.3～	麦・てん菜・豆類合同視察（北糖本別工場、ホクレン本所、中央農試）
2017.12.4～	消費地視察研修（橋本食糧、叶匠壽庵、水常商店、山本商店）
2018.2.22	第16回通常総会
2018.6.20	オホーツクビーンズファクトリー施設見学
2018.11.28～	消費地視察研修（なごみの米屋、榮太樓総本舗、紀の国屋、豊洲市場）
2018.12.7	豆類料理研修会　（講師：穀物アドバイザー　辻本宣子氏）
2019.1.21	訓子府町へ豆の寄贈（トラ豆、小豆、白花豆）
2019.2.21	第17回通常総会
2019.8.29	役員会・圃場巡回（小粒大豆「ユキシズカ」の取組み）
2019.11.27～	消費地視察研修（ミツカン、ライクスタカギ、立花屋）
2019.12.13	豆類料理研修会　（講師：穀物アドバイザー　辻本宣子氏）
2020.2.20	第18回通常総会
2020.8.31	圃場巡回・役員会
2021.12～22.1	豆類生産振興対策（消費拡大を目的に会員全戸に地元産豆類和菓子の配布）
2021.2.18	第19回通常総会
2021.11.26～30	豆類生産振興及び消費促進活動（会員全戸に地元産豆類和菓子を配布）
2021.12.22	豆類の意見交換会（農林水産省農産局穀物課　萱野係長）
2022.2.17	第20回通常総会
2022.3.28	高級菜豆栽培技術講習会　（22名参加）
2022.3.29	小豆栽培技術講習会（31名参加）
2022.3.30	大豆栽培技術講習会(39名参加)
2022.7.21	大豆現地栽培技術講習会（25名参加）
2022.11.28～	消費地視察研修（長崎文明堂製菓、明月堂、丸美屋）
2023.1.26～30	豆類の生産振興及び消費促進活動（会員全戸に地元産豆類和菓子を配布）
2023.2.15	第21回通常総会（歴代会長に感謝状贈呈）

豆類で人と畑に元気を！

きたみらい豆類振興会
会　長　**石川　修**

JAきたみらいがこの度、設立20周年を迎えられることにお祝いを申し上げるとともに、この記念誌が未来にその歴史を残していくことは大変意義深く喜ばしい事であると感じます。

当振興会は一口に「豆類」と言いましても、大豆、小豆、高級菜豆と性質も栽培方法も多岐に亘り、地域ごとに天候や土質に合わせた経験が「モノ」をいう作物であり、生産者の日頃の努力が今日の豆類栽培を支えていると言っても過言ではないでしょう。

ここ10年では、労働力のかかる「高級菜豆」は減少していき、国策でもある「大豆」が顕著に増加する傾向にありますが、どの豆も「きたみらい」を代表する品目として重要であります。

そんな中、平成30年にオホーツクビーンズファクトリーが大空町に建設され、広域での「豆類集荷調製基地」が出来上がりました。農協単位だけではく、オホーツク地方が一丸となって豆類生産に取り組むことは大変望ましい形であると感じております。

農業情勢は日々大きく変化し、厳しいときもありますが、「人と畑に元気を与える」第4の輪作作物として、また需要に応えるべく、高品質高収量な豆類栽培に会員全員で取り組んで参ります。

結びにJAきたみらい設立20周年を一つの契機とし、組合員の強固な結集の下でますます発展されることをご祈念申し上げ、お祝いの言葉といたします。

会　長　石川　修

副会長　山梨　健司

副会長　岡野　拓弥

役員一覧

	平成25年度		平成26年度		平成27年度		平成28年度		平成29年度		平成30年度	
役　職	地区	氏　名	地区	氏　名	地区	氏　名	地区	氏　名	地区	氏　名	地区	氏　名
会　長	留	茂住修二	留	茂住修二	留	茂住修二	端	丸本　仁	端	丸本　仁	端	丸本　仁
副会長	北	小川淳志	置	長沢　孝	置	長沢　孝	置	長沢　孝	置	長沢　孝	訓	石川　修
	上	角田大造	端	丸本　仁	端	丸本　仁	訓	石川　修	訓	石川　修	留	荒　伸一
理　事	訓	牧嶋重雄	温	藤谷　農	温	藤谷　農	温	加藤直人	温	加藤直人	温	山梨健司
	相	田中　圭	上	渡部　剛	上	渡部　剛	相	星加幸司	相	星加幸司	置	下村和彦
	端	丸本　仁	北	奥村和也	北	奥村和也	北	福井慎一	北	福井慎一	上	長山正吉
監　事	温	福崎波夫	訓	牧嶋重雄	訓	牧嶋重雄	上	渡部　剛	上	渡部　剛	相	星加幸司
	置	佐藤孝之	相	田中　圭	相	田中　圭	留	荒　伸一	留	荒　伸一	北	福井慎一
会員数	226名		217名		207名		204名		237名		250名	

	令和1年度		令和2年度		令和3年度		令和4年度		令和5年度	
役　職	地区	氏　名	地区	氏　名	地区	氏　名	地区	氏　名	地区	氏　名
会　長	端	丸本　仁	訓	石川　修	訓	石川　修	訓	石川　修	訓	石川　修
副会長	訓	石川　修	温	山梨健司	温	山梨健司	温	山梨健司	温	山梨健司
	留	荒　伸一	端	岡野拓弥	端	岡野拓弥	端	岡野拓弥	端	岡野拓弥
理　事	温	山梨健司	留	武田　透	留	武田　透	留	武田　透	留	武田　透
	置	下村和彦	相	北口裕生	相	北口裕生	置	篠木雄一郎	置	篠木雄一郎
	上	長山正吉	北	中嶋　賢	北	中嶋　賢	上	田中裕明	上	田中裕明
監　事	相	星加幸司	置	篠木雄一郎	置	篠木雄一郎	北	中嶋　賢	北	中嶋　賢
	北	福井慎一	上	田中裕明	上	田中裕明	相	北口裕生	相	北口裕生
会員数	259名		263名		266名		285名		286名	

平成25年度

生育期間中は高温・干ばつと気象変動が大きく、大豆で百粒重がやや低く、小豆では着莢数及び1莢粒数ともに平年より多く、百粒重もやや高かった。高級菜豆は8月上旬まで続いた高温の影響により茎中間部の花数がやや少ない傾向から花豆は着莢数も平年を下回り、虎豆・大福は平年並みとなった。振興会事業は実需者・関係機関と販売状況及び輸入動向など意見交換を行った。

10a平均収量　大豆246kg・小豆279kg・高級菜豆310kg

白花豆の竹さし作業

平成26年度

大豆・小豆とも生育中は天候にも比較的恵まれ、着莢数及び1莢粒数ともに平年より多く、特に大豆は病害虫による被害粒も少なく、高品質大豆を生産することができた。高級菜豆は生育期間が干ばつであった事から、全体的に小粒傾向の年産となった。振興会事業では会員相互の情報交換を目的に全体交流会、地区間の交流促進を図った。

10a平均収量　大豆264kg・小豆282kg・高級菜豆303kg

きれいに咲いた紫花豆の花

平成27年度

大豆・小豆においては早熟傾向で推移した事から未熟粒が散見され、大豆では中心規格が3等原料となり、小豆では色斑による品位の低下が著しい年産となった。高級菜豆は10月上旬に2回の風害が発生し、全般的に倒伏被害を受け、女竹などの資材に多大な損害を与えた。振興会事業では圃場巡回及び消費地視察研修を実施し、有利販売に向けて情報収集を行い、風害に対しては被害対策の要請活動を行った。

10a平均収量　大豆252kg・小豆273kg・高級菜豆277kg

恒例の「豆類料理研修会」

平成28年度

大豆の一部で、未熟粒や茎水分が高い状況での収穫から汚粒が見られたが、中心規格は2等原料となった。小豆は湿害の影響から着莢数、1莢粒数が少なく、開花も不揃いで品質が思わしくなく、調製に苦労した年産となった。高級菜豆全般で生育障害が発生し、子実の充実が進まず、収量は大幅に減少し、市場の混乱を招き販売環境を悪化させる年産となった。

10a平均収量　大豆236kg・小豆228kg・高級菜豆188kg

いろんな豆で作られた豆料理

平成29年度

圃場条件が良好の中で収穫できたことにより、大豆においては汚粒の発生は少なく品質は良好であった。小豆は積算温度が不足したことにより、色の浅い年産となった。高級菜豆については作付面積減少が止まらない事もあり、出回りが大きく減少した。振興会として、産地の結集力を基本としたブランド回復を含めて意見交換を積極的に行った。

10a平均収量　大豆257kg・小豆279kg・高級菜豆236kg

収穫された小豆

平成30年度

収穫作業は大豆で平年より3週間遅れの開始、気温が低いことから乾燥が進まず、汚粒の発生が過去最大となり、苦労した年産となった。小豆も高水分で未熟粒の混入が多く、色も浅い原料が目立った。高級菜豆は本年から全量オホーツクビーンズファクトリーへの入庫となった。振興会活動は圃場巡回やOBFへの視察などを実施し、作況や新施設による稼働状況を確認し、現状把握に努めた。

10a平均収量　大豆264kg・小豆252kg・高級菜豆177kg

新設された「オホーツクビーンズファクトリー」

令和1年度

収穫直前の降雨により、大豆の水分が戻ったことでしわ粒が多発し、入庫した原料の8割が3等原料となり、品質面に課題を残す結果となった。一方、小豆は7月下旬からの高温により、落花がやや多くなったが、着莢数が平年より多く、平年以上の収量は確保できた。又、全道的な品不足により価格は高水準で推移した。高級菜豆は中段莢が少なく、色のバラつきが目立ち、特に白花豆を中心に品質が低下した。振興会活動では豆料理研修の参集範囲を広げ、地区間の交流促進を図った。

10a平均収量　大豆281kg・小豆298kg・高級菜豆240kg

白花豆の手選別作業

令和2年度

生育は旺盛で軟弱徒長気味であったことから、倒伏が目立ち、成熟期は平年より早まった。大豆・小豆とも、着莢数及び1莢内粒数とも平年より少なく、百粒重も軽かったことから収量は平年を下回った。高級菜豆は開花期以降の高温干ばつの影響を受け、一部圃場で落莢が見受けられた。早期入庫により年内需要に向けていち早く消費地に製品を届けることができたが、作付面積の減少が止まらない状況が続いている。コロナ禍の影響で、活動の自粛を余儀なくされ、地元産豆類を使用した和菓子を会員全戸に配布し、作付推進を図った。

10a平均収量　大豆234kg・小豆224kg・高級菜豆235kg

虎豆の脱殻作業

令和3年度

高温少雨の影響で着莢数は平年よりやや少ない状況で成熟期が進み、大豆で収穫作業は平年より7日早く始まった。小豆では7月の高温により落花し、その後の着莢も遅れ、収穫は逆に平年より7日遅れた。特に小豆は未熟粒が多く混入し、品位に課題が残る結果となった。高級菜豆において、収穫作業で青莢が多く混入した状況でのニオ積みになり、子実乾燥が進まず大幅に遅れた。振興会活動では「高級菜豆意向調査」を実施し、調査結果に基づき今後の生産振興について協議を行った。

10a平均収量　大豆234kg・小豆184kg・高級菜豆188kg

大型コンバインでの大豆収穫作業

令和4年度

日照不足により茎葉が軟弱徒長に成長したため、倒伏が発生し、大豆では着莢数は平年よりやや少ない状況となり、小豆は登熟期間に高温で経過し、成熟期は4日程度早まったが、大豆・小豆とも品質は概ね良好で年産を終了した。高級菜豆も子実乾燥は順調に進み、収穫作業は平年並みに始まり、品質も概ね良好であった。振興会事業としては、コロナの状況を踏まえながら、3年ぶりに消費地視察研修を実施し、国産豆類の実需者が求める品質や生産現場の実情を踏また中で意見交換を実施した。

10a平均収量　大豆240kg・小豆268kg・高級菜豆325kg

令和4年道外研修（熊本城にて）

きたみらい酪農振興協議会

きたみらい酪農振興協議会

設　立　平成15年2月27日
会員数　120名
会　長　中島　英樹

主なできごと

2013.4.23	第10回きたみらい酪農振興協議会通常総代会
2013.7.20	第10回JAきたみらい乳牛共進会(合併記念事業併催)
2013.8.18	第63回北見管内総合家畜共進会
2013.8.19～20	先進地視察研修会(中標津町・別海町)
2013.9.28～29	2013北海道ホルスタインナショナルショウ
2013.11.20	酪農女性の8地区昼食交流会
2014.3.18	きたみらい酪農セミナー
2014.4.23	第11回きたみらい酪農振興協議会通常総代会
2014.7.19	第11回JAきたみらい乳牛共進会
2014.8.19～20	先進地視察研修会(新得町・千歳市)
2014.8.30	第64回北見管内総合家畜共進会
2014.9.27～28	2014北海道ホルスタインナショナルショウ
2014.11.8	酪農女性の8地区昼食交流会
2015.2.20	オホーツク酪農畜産研修会(農林水産省との意見交換会)
2015.3.10	きたみらい酪農振興協議会臨時総代会
2015.3.18	きたみらい酪農セミナー
2015.4.23	第12回きたみらい酪農振興協議会通常総代会
2015.7.18	第12回JAきたみらい乳牛共進会
2015.8.18～19	先進地視察研修会(別海町・中標津町)
2015.8.27	第65回北見管内総合家畜共進会
2015.9.19～20	2015北海道ホルスタインナショナルショウ
2015.10.23～26	第14回全日本ホルスタイン共進会
2015.10.30	酪農女性の8地区昼食交流会
2016.3.16	きたみらい酪農セミナー
2016.4.22	第13回きたみらい酪農振興協議会通常総代会
2016.7.16	第13回JAきたみらい乳牛共進会
2016.8.27	第66回北見管内総合家畜共進会
2016.9.24～25	2016北海道ホルスタインナショナルショウ
2017.1.25	酪農女性の8地区昼食交流会
2017.3.16	きたみらい酪農セミナー
2017.3.29	常勤との懇談会
2017.4.24	第14回きたみらい酪農振興協議会通常総代会
2017.6.7～8	先進地視察研修会((株)シントクアユミルク・(有)小林牧場)
2017.7.15	第14回JAきたみらい乳牛共進会
2017.8.26	第67回北見管内総合家畜共進会
2017.9.23～24	2017北海道ホルスタインナショナルショウ
2018.1.19	酪農女性の8地区昼食交流会
2018.3.26	常勤との懇談会
2018.3.28	きたみらい酪農セミナー
2018.4.23	第15回きたみらい酪農振興協議会通常総代会
2018.6.7～8	先進地視察研修会(サンエイ牧場・鹿追町環境保全センター)
2018.7.21	第15回JAきたみらい乳牛共進会
2018.8.25	第68回北見管内総合家畜共進会
2018.11.16	常勤理事との懇談(停電災害関連)
2019.1.16	酪農女性の8地区昼食交流会
2019.3.22	きたみらい酪農セミナー
2019.4.23	第16回きたみらい酪農振興協議会通常総代会
2019.6.6	哺育育成センター役員との懇談会
2019.7.20	第16回JAきたみらい乳牛共進会
2019.8.23	第69回北見管内総合家畜共進会
2019.9.28～29	2019北海道ホルスタインナショナルショウ
2019.11.14～15	先進地視察研修会
2020.1.16	酪農女性の8地区昼食交流会
2020.4.24	第17回きたみらい酪農振興協議会通常総代会
2020.5.27	牛乳券寄贈(一市二町、小中学校)
2020.11.17	常勤役員との懇談会
2020.11.30	牛乳プリン寄贈(一市二町、小中学校)
2021.4.23	第18回きたみらい酪農振興協議会通常総代会
2021.11.9～18	牛乳券寄贈(一市二町、小中高校)
2021.11.11～12	乳製品寄贈(北見工業大学)
2021.12.3	乳製品寄贈(日本赤十字北海道看護大学)
2022.1.7	常勤役員との懇談会
2022.1.13	牛乳消費キャンペーン(牛乳配布1,650本)
2022.3.24	牛乳消費キャンペーン(牛乳配布1,650本)
2022.4.22	第19回きたみらい酪農振興協議会通常総代会
2022.6.9	生乳生産目標数量にかかる経過説明会
2022.7.19	第19回JAきたみらい乳牛共進会
2022.8.18	第70回北見管内総合家畜共進会
2022.9.24～25	2022北海道ホルスタインナショナルショウ
2022.10.24	常勤役員との懇談会
2022.12.22～23	乳製品寄贈(北見工業大学)
2022.12.26～27	乳製品寄贈(日本赤十字北海道看護大学)
2023.1.12	牛乳消費キャンペーン(牛乳配布1,650本)
2023.3.7	きたみらい酪農セミナー
2023.3.18	北海道酪農・畜産危機突破緊急集会(札幌市)

「きたみらい酪農のみらいへ」

きたみらい酪農振興協議会
会　長　**中島　英樹**

8農協の合併に伴って、酪農組織も一つの方向性を持たせるべく当協議会が出来て20年が経過しました。最初の10年は、きたみらい酪農としてのアイデンティティを持つべく、ハード面を前面に出し、合併農協としての可能性を求心力にして組織形成に努めた期間だったように思います。そして、20年目を迎えたこの10年は純粋なきたみらい酪農を担う人材の育成に費やされた期間ではないかと思います。20年という月日は各経営での世代交代を進め、酪農後継者で構成される酪農青年部の役員経験者が、現在の当協議会の中心メンバーになりつつあります。長いスパンで見ると、生乳需給の逼迫・緩和や、生産資材の高騰・乳価の下落等の波は繰り返し、その都度、戸数の減少は続くのかもしれません。しかし、優秀な人材が揃っていれば、どんな難局も乗り越えていってくれるはずです。次の10年で回顧したとき、そこに何が詰まっているのかを楽しみに日々、牛と向き合っていきたいと思います。

会　長　**中島　英樹**

副会長　**渡辺　克夫**

副会長　**小山　勇樹**

役員一覧

	平成25年度		平成26年度		平成27年度		平成28年度		平成29年度		平成30年度	
役　職	地区	氏　名	地区	氏　名	地区	氏　名	地区	氏　名	地区	氏　名	地区	氏　名
会　長	温	伊藤　稔	温	伊藤　稔	温	伊藤　稔	置	溝井雅幸	置	溝井雅幸	端	中島英樹
副会長	置	溝井雅幸	置	溝井雅幸	置	溝井雅幸	訓	髙倉昌勝	訓	髙倉昌勝	訓	渡辺克夫
	訓	髙倉昌勝	訓	髙倉昌勝	訓	髙倉昌勝	端	中島英樹	端	中島英樹	置	倉本秀樹
理　事	北	阿部高久	留	井上啓一	端	村岡　勉	温	村井　稔	温	村井　稔	温	村井　稔
	留	井上啓一	端	村岡　勉	相	小野光則	北	上野元一	北	上野元一	北	上野元一
	端	村岡　勉	相	小野光則	北	沢野修三	上	神田典廣	上	神田典廣	上	神田典廣
	相	小野光則	上	林　孝徳	置	中村克信	訓	渡辺克夫	訓	渡辺克夫	訓	永井一好
	上	林　孝徳	北	沢野修三	訓	浜野和弘	置	中村克信	置	中村克信	置	小山勇樹
	訓	大塚正夫	置	中村克信								
	置	小嶋春夫	訓	浜野和弘								
代表監事	温	中沢　弘	温	村井　稔	置	坂本了一	温	山梨一将	温	山梨一将	温	山梨一将
監　事	置	佐藤正光	置	坂本了一	温	村井　稔	訓	梶田直樹	訓	梶田直樹	置	竹内　進
会員数	183名		172名		165名		157名		151名		144名	

	令和1年度		令和2年度		令和3年度		令和4年度		令和5年度	
役　職	地区	氏　名	地区	氏　名	地区	氏　名	地区	氏　名	地区	氏　名
会　長	端	中島英樹	端	中島英樹	端	中島英樹	端	中島英樹	端	中島英樹
副会長	訓	渡辺克夫	訓	渡辺克夫	訓	渡辺克夫	訓	渡辺克夫	訓	渡辺克夫
	置	倉本秀樹	置	倉本秀樹	置	倉本秀樹	置	小山勇樹	置	小山勇樹
理　事	温	村井　稔	温	村井　稔	温	村井　稔	温	村井　稔	温	村井　稔
	北	上野元一	北	上野元一	北	上野元一	北	上野元一	北	上野元一
	上	神田典廣	訓	永井一好	訓	永井一好	訓	永井一好	訓	永井一好
	訓	永井一好	置	小山勇樹	置	小山勇樹	置	佐藤　猛	置	佐藤　猛
	置	小山勇樹	相	狛　憲彦	相	狛　憲彦				
代表監事	温	山梨一将	訓	浜野利治	訓	浜野利治	北	山内　誠	北	山内　誠
監　事	置	竹内　進	北	山内　誠	北	山内　誠	置	安藤正文	置	安藤正文
会員数	140名		133名		128名		125名		120名	

平成25年度

第8期生乳安定生産対策(H24～26年)により、増産体制を基本(前年対比103%の設定)としていたが、実績乳量91,117tと前年実績対比98.2%となった。JA合併10周年記念事業と併催された、JAきたみらい乳牛共進会については、酪農経営の発展に寄与する共進会となり、出品頭数96頭と盛大な共進会となった。

盛大に開催されたJA合併10周年記念共進会

平成26年度

植生改善の取組として、簡易更新機・追播機6台を新たに購入し、急激な円安の進行や飼料用穀物相場の高値推移等による生産拡大意欲の減退と生産基盤の弱体化を阻止することを目的として導入。また、生産基盤の脆弱を招かぬよう、牛群の効率的な増頭による生産基盤の強化、生産性の向上に資することを目的に「生乳増産対策事業」にも取り組んだ。

牧草の収穫作業

平成27年度

5年に1度開催される全日本ホルスタイン共進会がこの年に行われ、JAきたみらいから出品した牛が、ホルスタイン種未経産牛の中でも最高位となる「名誉賞」を受賞し、JAきたみらいの乳牛改良技術の高さを示すことができた。畜産農家・地域の関係事業者が連携・結集し、地域ぐるみで高収益型の畜産を実現するための体制である「畜産クラスター事業」がこの年から始まった。

未経産最高位「名誉賞牛」

平成28年度

初妊牛1頭当たりの平均価格が100万円に迫るなど個体取引価格が高騰し、廃用牛や初生トクでも年間通じて通常の6～8割増しで推移した。全道共進会に於いては、1等賞入賞牛が11頭。さらにはジュニアカップではチャンピオン獲得と素晴らしい成績を収めた。

高価格取引されるセリの様子

平成29年度

年間の旺盛な需要に対する乳牛資源不足が初妊牛価格の暴騰に拍車をかけ前年同様高値で推移した状況となった。生乳取引価格については、プール乳価が引き上げとなり、税込み100円／kgを上回り、北海道農協酪農・畜産対策本部委員会が掲げる酪農家の所得目標「生乳1kg当たり30円以上」も達成可能な状況となった。

低温殺菌のきたみらい牛乳

平成30年度

平成30年9月6日に胆振東部を震源とする地震が起き、全道各地で大規模停電(ブラックアウト)が発生した。当JAでも551tの生乳を廃棄する事態となり、国・道・市・町・JAも加わり発電機・配電盤の導入事業を行い不測の事態への整備を行った。畜安法が一部改正され補給金交付対象の拡大や新たに集送乳調整金の交付が行われた。

各酪農家へ設置されている発電機

令和1年度

全道共進会に於いて1等賞入賞牛が6頭となり、さらにはリザーブインターミディエイトチャンピオンに輝くなど素晴らしい成績を収めた。令和2年1月頃に発生した新型コロナウィルスの感染が各地で拡がりをみせ、3月に予定していた酪農セミナーが中止となった。他にもインバウンド等の減少により生乳需給のバランスが一気に崩れるなど酪農情勢の厳しい環境が始まった。

リザーブインターミディエイトチャンピオン牛を囲んでの記念写真

令和2年度

新型コロナウィルス蔓延により、緊急事態宣言の発出・小中学校の休校措置に伴う学給飲用乳の停止。当振興会でも例年行われていた振興会行事が全て中止となった。そういった状況下でも、牛乳・乳製品の消費拡大や需要喚起の目的で、医療・福祉施設へのきたみらい牛乳の寄贈や一市二町の小中学校全生徒へ牛乳券の配布と牛乳プリンの配布を行った。R2年4月よりホクレントラック加盟による家畜輸送事業を開始した。

きたみらい牛乳を飲む小学生

令和3年度

新型コロナウィルスの影響は収まらず、人流抑制や外出自粛などを強いられ、生乳・乳製品の消費減退が進み、乳製品の在庫が積み増すという状況に陥った。その中で北海道の生産者自ら80億円の出口対策を拠出。前年に引き続き各行事が中止となったことで予算を消費拡大事業に振り替え、一市二町の小中高生へ牛乳券の配布や北見工大・北見看護大生へ乳製品の詰め合わせを提供した。

北見工大・北見看護大の生徒へ乳製品の寄贈

令和4年度

令和4年度から生産抑制型(令和3年度生産目標数量の101％を全道の目標数量)をとり、特にペナルティを設けず全道で目標達成に取り組む「運動」という形となった。コロナ禍で中止となっていた振興会行事も一部再開(きたみらい乳牛共進会・酪農セミナー)し、畜産振興対策として乳質向上支援対策に取組んだ。

中島会長の”牛乳チャレンジ”